

第1回 TICAD V 閣僚会合
全体会合3「ポスト2015年開発アジェンダ」
岸田大臣ステートメント

議長、ありがとうございます。

御列席の皆様、

今、ミレニアム開発目標、MDGsの期限が2015年に迫り、次の開発アジェンダの策定に向けて議論が本格化しています。AUは共通ポジション、CAPを策定しました。日本もこの議論に積極的に参加しています。この機会に、日本とアフリカが開発の課題にどのように取り組んでいくべきか、大いに議論したいと思っています。

まず強調したいのは、MDGsの残された課題に取り組むことの重要性です。この点、アフリカには、国ごと、あるいは分野ごとに成果にばらつきがあり、残された課題が多くあると認識しています。

さらに指摘したいことは、成長の重要性です。しかし、成長の恩恵を十分に受けていない人々がいることは、我々皆が知るところです。開発の過程で拡大した格差や衡平性の問題に取り組む、すべての人を取り込んだ成長を推進し、開発を達成しなければなりません。この点、私は、包摂的な成長をCAPの第一の柱に掲げているアフリカの立場に強く同意します。

日本は、ポスト2015年開発アジェンダは、人間の安全保障を指導理念とすべきであると訴えてきました。アフリカが重視する人間中心のアプローチは、人間の安全保障の考えそのものです。この理念の下、日本は開発のために不可欠な三つの要素を提案します。すなわち、ビタミンが人体にとって不可欠な栄養素であるように、開発に必要なビタミンI、ビタミンS、ビタミンRです。

ビタミンIは、包摂性 (Inclusiveness), 別の言葉で言えば「誰一人として取り残さない」。立場の弱い人々を保護し、能力を強化し、不平等と国内格差を是正し、ジェンダー平等を達成し、子供から若者から高齢者まで、一人ひとりが開発の果実を享受できる世界を実現しましょう。この観点から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジも、万人のための教育も、普遍的なエネルギーアクセスも、追求すべき目標でると考えます。

ビタミンSは、持続可能性 (Sustainability), 別の言葉で言えば「子供たちに地球を手渡す」。経済・社会・環境の三側面を統合し、持続可能な開発を達成し、開発の成果が失われず、将来世代が引き続き文明を維持できる世界を実現しましょう。来年は、開発アジェンダに合意するとともに、気候変動交渉において2020年以降の枠組みに合意しなければなりません。

ビタミンRは、強靱性 (Resilience), 別の言葉で言えば「逆境に負けない社会を作る」。個人やコミュニティの能力強化、インフラ整備を通じて、紛争や災害、経済危機といったリスクに負けない世界を実現しましょう。特に、防災については、分野横断的課題として開発において主流化を進める必要があります。来年3月には東日本大震災の被災地である仙台で、第3回国連防災世界会議が開催されます。アフリカからもハイレベルの参加を得て、この面での議論を深めていきたいと思えます。

以上が開発に不可欠な3つのビタミンです。これに加えて、開発を実現するための環境についても触れないわけにはいかないでしょう。CAPの柱の一つが平和と安全です。開発のために平和と安全がいかに重要であるか、それは日本自身の過去70年近い経験で十分理解していることであり、またアフリカ自身にとっても、経験に基づく信念であると思えます。

実施手段の重要性については言うまでもありません。日本は TICAD V で表明した、官民の約 3.2 兆円の支援を着実に実施していきます。しかし、資金協力のみならず、アフリカのオーナーシップ、国内資金の動員、国際機関、民間企業、NGO などとの幅広いパートナーシップも重要です。我々は、CAP で、科学技術を一つの柱としていることに注目しています。日本としても、日本の知見や技術を是非活用してアフリカの開発に貢献していきたいと考えています。ケニア、エチオピアと CO2 削減のための二国間クレジット制度を構築していますが、これは日本の技術を活用して途上国の削減努力に貢献するものです。

ここまで申し上げて、いかにアフリカの立場と日本の立場が近いものであるか、改めて気づかされます。このたび我が国がまとめたポスト 2015 年開発アジェンダに関する考え方をお手元にお配りしていますので、参照していただければと思います。我々は同じ方向を向いています。日本とアフリカは、1993 年に TICAD プロセスを始めました。20 年以上にわたり、日本とアフリカはオーナーシップとパートナーシップの考えの下、開発の理念と実践を共有してきました。ポスト 2015 年開発アジェンダについても、日本とアフリカが手を携えて世界でイニシアティブを取っていきましょう。

皆さん、2030 年の、また、それ以降のアフリカ、そして世界を想像してみましよう。アフリカはますます躍動する大陸となっているでしょう。世界から、そしてアフリカから極度の貧困を撲滅しなければなりません。来年の開発アジェンダの策定に向けて、日本とアフリカは、共に協力して指導力を発揮し、共に世界に貢献していきましょう。アフリカの貧困撲滅なくして、世界の貧困撲滅はないのです。

御静聴ありがとうございました。